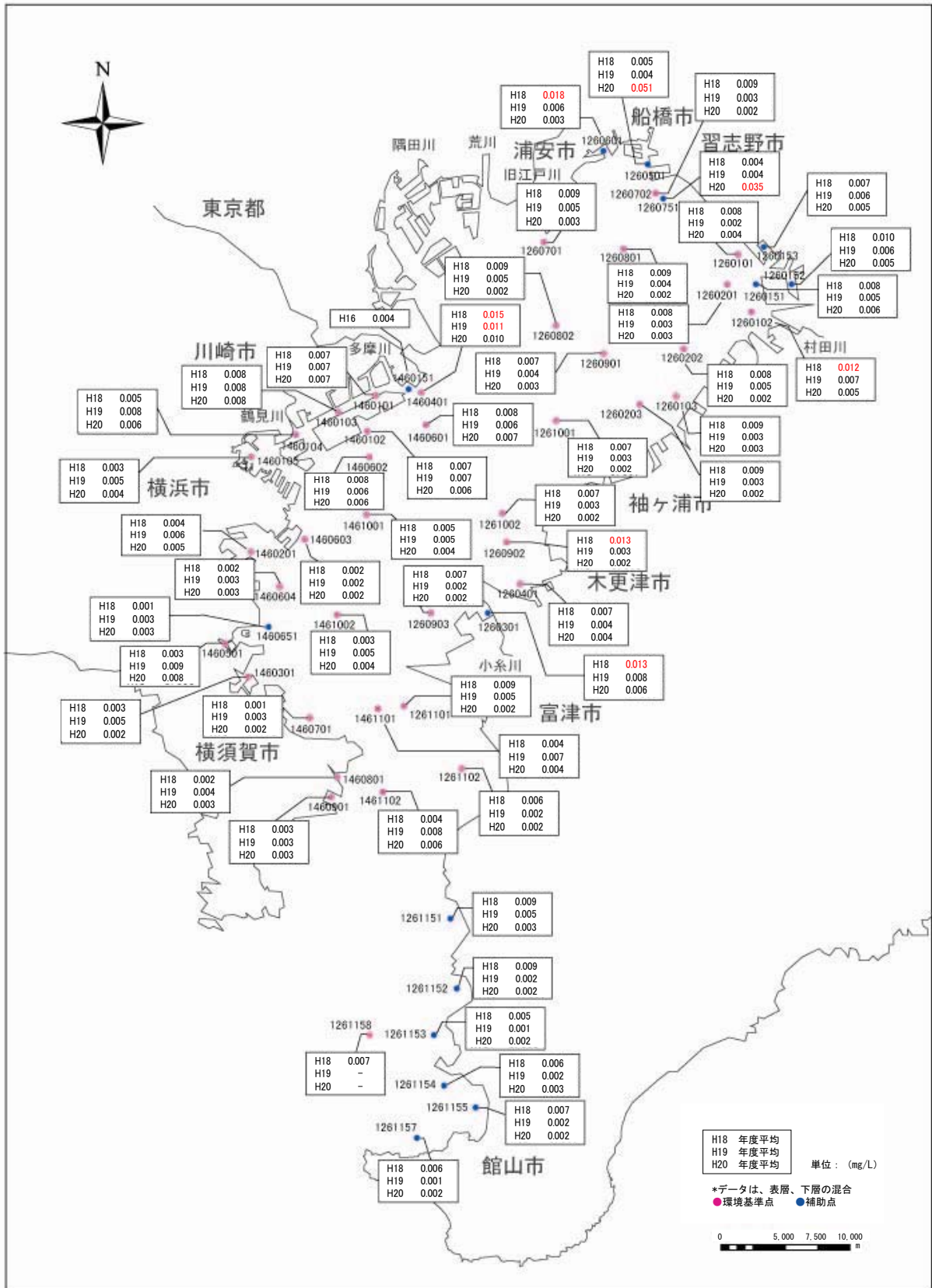


※環境基準値を超過した地点は、数値は赤文字で記載

全亜鉛（東京都）

出典：公共用水域データより作成

図4（1） 東京湾における全亜鉛の濃度分布（東京都）

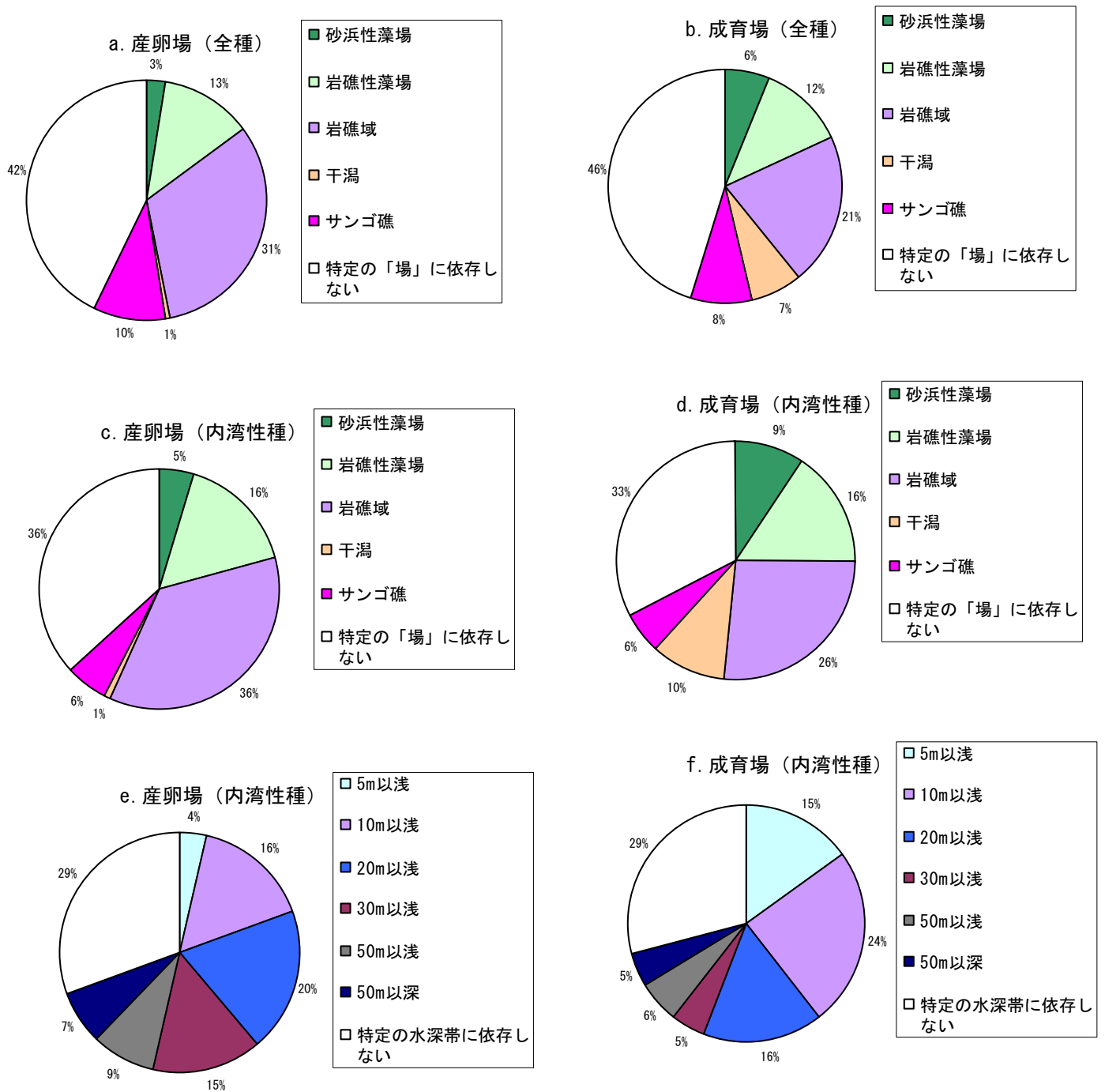


※環境基準値を超過した地点は、数値は赤文字で記載

全亜鉛（千葉県・神奈川県）

出典：公共用水域データより作成

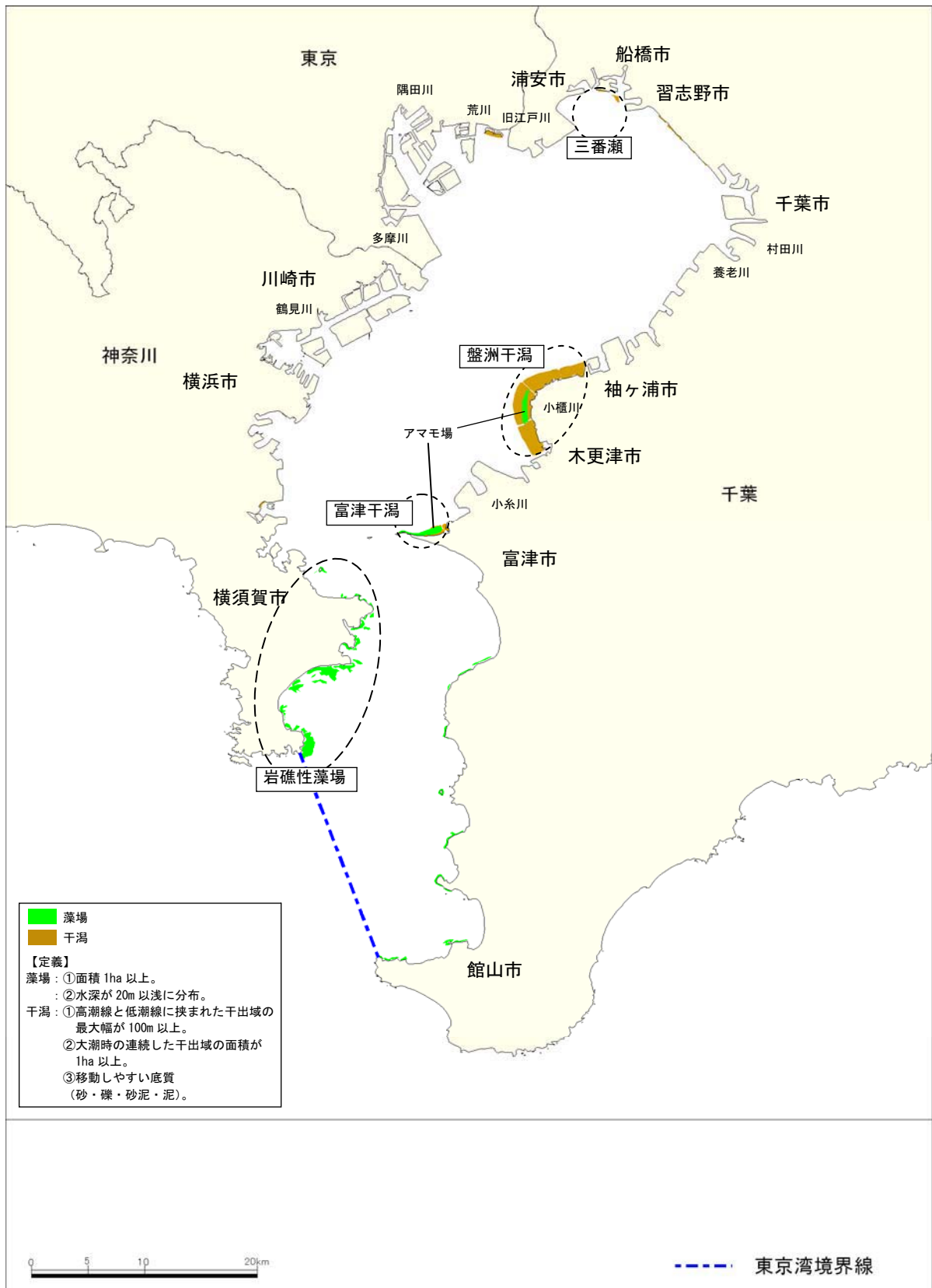
図4（2） 東京湾における全亜鉛の濃度分布（千葉県・神奈川県）



出典：沿岸漁場整備開発事業施設設計指針 平成4年度版 (社団法人 全国沿岸漁場振興開発協会, 1993)  
 沿岸至近域における海洋生物の生態知見 (魚類・イカタコ類編) ((財) 海洋生物研究所, 1991)  
 沿岸至近域における海洋生物の生態知見 (貝類・甲殻類・ウニ類編) (((財) 海洋生物研究所, 1991)  
 新版魚類学 (下) 改訂版 (落合明・田中克, 1998)  
 水産生物の生活史と生態 ((社) 日本水産資源保護協会, 1985)  
 水産生物の生活史と生態 (続) ((社) 日本水産資源保護協会, 1986)  
 水生生物生態資料 ((社) 日本水産資源保護協会, 1981)  
 水生生物生態資料 (続) ((社) 日本水産資源保護協会, 1983)  
 環境が水産動物および漁業に及ぼす影響を判断するための「判断基準」と「事例」((社) 日本水産資源保護協会, 1994)  
 日本の海水魚 (梶山と溪谷社, 1997)

図5 日本の主要な有用魚介類が産卵場や成育場として利用する「場」及び水深帯の組成





出典：環境省 第 5 回自然環境保全基礎調査（平成 9 年度～13 年度）

図 7 東京湾における主要な干潟・藻場

表2 東京湾における干潟のタイプと面積

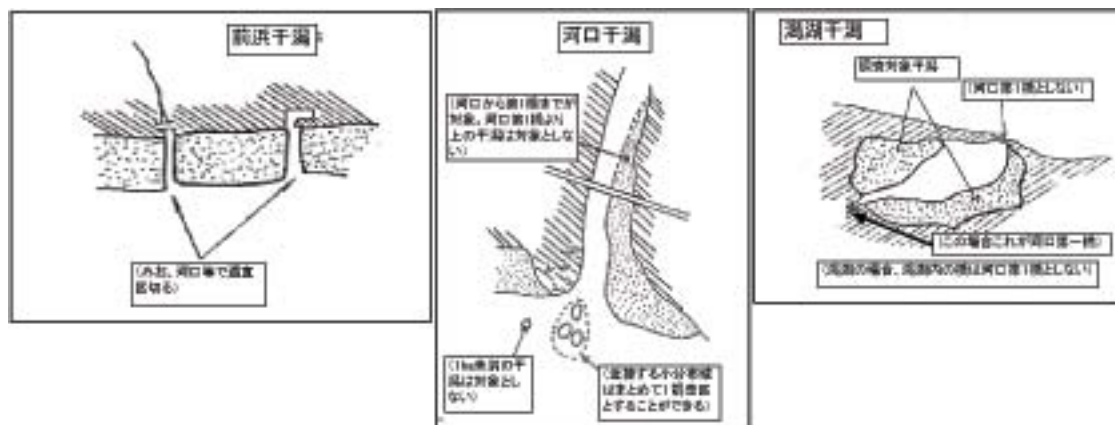
都県	地名	干潟タイプ	底質	面積 (ha)
千葉県	盤洲干潟 (約 1400ha)	畔戸地先	前浜	493.8
千葉県		木更津港北	前浜	358.4
千葉県		中島高須	前浜	345.0
千葉県		牛込高須	前浜	210.5
千葉県	富津干潟 (145.6ha)	富津公園地先	前浜	118.2
千葉県		富津港北	前浜	27.4
千葉県	三番瀬 (27.4ha)	千葉港地先干潟	前浜	16.6
千葉県		船橋海浜公園地先	前浜	10.8
神奈川県	金沢	前浜	砂泥	20.0
千葉県	幕張の浜	その他	砂泥	16.6
東京都	高州	人工干潟	砂泥	16.0
東京都	多摩川河口 (河川内を除く)	河口	砂泥	11.5
千葉県	いなげの浜	その他	砂泥	9.6
千葉県	豊砂地先海浜	その他	砂泥	9.2
千葉県	検見川の浜	その他	砂泥	6.8
千葉県	木更津港内	前浜	砂泥	6.5

注1) 対象干潟

- ・高潮線と低潮線に挟まれた干出域の最大幅が100m以上であること。
- ・大潮時の連続した干出域の面積が1ha以上であること。
- ・移動しやすい底質(砂、礫、砂泥、泥)であること。

注2) 干潟タイプ 下図のとおり前浜・河口干潟・潟湖干潟及びその他(人工干潟等)に分類される。

注3) 調査区設定方法 現存干潟の調査区設定・面積等把握の際には、原則同タイプの干潟が連続的に分布する範囲(分布域)を1調査区とする。ただし、分布域が長大な場合は、河口、みお、航路、岬角等の地形で適宜区分することができる。各タイプの調査区設定は区分基準(下図のカッコ内)に準ずる。



注4) 底質:

- 礫: 粒径2mm以上
- 砂: 0.1~2mm
- 泥: 0.1mm以下
- 砂泥: 砂と泥の混合

出典: 環境省 第5回自然環境保全基礎調査



表3 東京湾における藻場のタイプと面積

都県	地名	藻場タイプ	疎密度	面積 (ha)
神奈川県	間口	アラメ場	密生	261.0
神奈川県	野比	アラメ場	疎生	152.0
千葉県	富津干潟	アマモ場	疎生	116.9
千葉県	盤洲干潟	アマモ場	疎生	104.1
神奈川県	久比里	アラメ場	疎生	94.0
神奈川県	千太崎	アラメ場	疎生	77.0
神奈川県	鴨居、島ヶ崎	ガラモ場	密生	58.0
神奈川県	毘沙門根	アラメ場	密生	53.0
神奈川県	走水	アラメ場	疎生	49.0
神奈川県	ナガ根	アラメ場	疎生	49.0
神奈川県	雨崎	アラメ場	密生	43.0
神奈川県	三ツ磯	アラメ場	疎生	36.0
神奈川県	ボツヶ崎	アラメ場	疎生	28.0
神奈川県	松崎	アラメ場	疎生	27.0
神奈川県	アシカ島	アラメ場	密生	27.0
神奈川県	猿島	アラメ場	疎生	24.0
神奈川県	香山根	アラメ場	疎生	24.0
神奈川県	川尻	アマモ場	疎生	24.0
神奈川県	小浜	アラメ場	密生	23.0
神奈川県	金田	アラメ場	密生	20.0
神奈川県	伊勢町	アマモ場	疎生	19.0
千葉県	大房岬	ガラモ場・アラメ場・ワカメ場	疎生	18.6
神奈川県	細根	アラメ場	密生	18.0
千葉県	沖ノ島	ガラモ場・ワカメ場	濃生	16.1
千葉県	名鐘寺	ガラモ場・アラメ場	密生	14.8
千葉県	竹岡	ガラモ場・アラメ場	密生	13.3
千葉県	浮島	ガラモ場・アラメ場・ワカメ場	疎生	11.6
千葉県	坂田	アラメ場	密生	11.4
千葉県	大浜	ガラモ場・アラメ場	疎生	10.3
千葉県	鷹ノ島	ガラモ場・アラメ場	疎生	9.4
千葉県	洲ノ崎灯台下	ガラモ場・アラメ場	疎生	9.4
千葉県	波左間	アラメ場	密生	7.5
神奈川県	観音崎	アラメ場	疎生	7.0
神奈川県	タタラ浜、腰越	アマモ場・ガラモ場	疎生	7.0
千葉県	萩生新町、芝崎	ガラモ場・アラメ場	疎生	6.5
千葉県	西浜	アラメ場・ワカメ場	疎生	5.5
千葉県	南無谷	ガラモ場・アラメ場・ワカメ場	疎生	4.0
神奈川県	笠島	アラメ場	疎生	1.0
神奈川県	黒島	アラメ場	疎生	1.0

注1) 対象藻場 ・面積が1ha以上であること。

・水深が10m以浅に分布すること。

注2) 藻場タイプ アマモ場：アマモ、コアマモ等が代表種（優占種）となっている藻場。

ガラモ場：ホンダワラ類・ウミトラノオ等が代表種（優占種）となっている藻場。

アラメ場：アラメ・カジメ・クロメ等が代表種（優占種）となっている藻場。

ワカメ場：ワカメ・ヒロメ等が代表種（優占種）となっている藻場。

注3) 疎密度 濃生：海底面がほとんど植生で覆われている。

密生：海底面より植生の方が多い。

疎生：植生より海底面の方が多い。

出典：環境省 第5回自然環境保全基礎調査